

## 新たな国民健康保険体制を経験して



郡上市健康福祉部  
保険年金課長

古川 義幸

保険年金課長として3年目を迎えました。国民健康保険の外に後期高齢者医療と国民年金が主な業務となっています。これを課長補佐以下5名の職員で行っています。

保険年金課長の拝命を受けた平成30年度といえば国民健康保険制度に大きな改革がありました。岐阜県が保険者となり財政運営の責任主体となったこと。保険者努力支援制度が本格的に始まったことなど、重大な局面にいきなり関わることになりました。

私の国保の知識といえは、25年前に1年間だけ担当したという乏しい記憶の中で、岐阜県が保険者となって市町村との新しい関係と運営がどうにも理解しきれず、資料を出してきては一所懸命調べていたことを今は懐かしく思い出しております。保険税も昔と違って、いくつもの項目に分かれて計算されており、随分ややこしくなったことを実感しました。しかし、県域化を機に懸案だった保険税の資産割が廃止されていたことは前任者に感謝でした。保険税率全体も見直した結果、一人当たりの保険税負担額が前年度より8%ほど低く抑えられています。昨年は事業費納付金の急激な増額に見舞われましたが、何とか耐え忍んだという感じで、今年度まで税率を維持しております。

保険者努力支援についてはエピソードがあります。平成30年度に示された評価結果を見て、郡上市はたいへんな下位に位置していることに驚いているところに、上位にいた隣の課長さんから、「結果はどうでしたか。」と声を掛けられ、「全然ダメですね」と恥ずかし気に答えたもの

です。それでも負け惜しみに「伸びしろはありますから」とも付け加えました。俄然張り切って取り組み、何より国保連合会の皆様のご指導のおかげをもちまして、翌年度は一躍トップとなりました。信じられない急上昇には、これまで特定健診等に実績を作ってきた保健師たちを含め、皆様に感謝でした。

最近の特定健診の受診率につきましては、伸び悩みをしております、受診率向上のためには、全く新しい取り組みの必要性を感じていますが、残念ながら今年度で退職する身であり、後任の課長に託すことになりました。

県の国民健康保険課や国保連合会の皆さん、市町村の担当課長さん方との出会いによって、私の行政マンとしての生活が豊かなものとなり感謝の念でいっぱいですが、今年度は新型コロナウイルスにより交流することはなく、新たな業務が増えたという大変な年になってしまいました。最後の年なのという思いで一杯です。

退職後は、デスクワークより少しばかりある田と畑で体を使っているの生活を夢見ております。そしてサルとの知恵比べでボケ防止を図るつもりです。これまで全敗していますから。

今後も予防事業への取り組みはどんどん要求されていくことでしょう。データ分析も進化していく中で、保健指導など最終的にはマンパワーが必要です。ちよつと動きが加わるだけで意外な成果がもたらされることがあります。残された時間を試行錯誤しながら成果に向けて研究していきたいと思えます。